534 実験的動脈・静脈血栓の特徴

鈴木輝康，佐藤仁一，山崎俊江，古西博明，
青木　茂，増田一孝*，浜津尚就*，山崎　武
（滋賀医大　放，*放射線部），鳥塚莞爾
（京大　放　核），堀内和子，横山　陽（京大　薬）

我々はこれまで本学会において動脈・静脈血栓モデルの生成法とそのイメージングについて発表してきたが，今回，Ga−67−fibrinogen−DAS−DFOおよびIn−111 oxine plateletを用い，その両者のイメージングの差異について検討してきた。従来の報告では，動脈血栓と静脈血栓とでは，イメージングにおいて差が存在すると報告されてきたが，Ga−67−fibrinogen−DAS−DFO，In−111 oxine plateletでは両者の血栓モデル上の差異を認めなかった。Ga−67−fibrinogen−DAS−DFOでは血栓の古さの検出能においても両者の差を認めず，血栓形成基本構成成分上，両者のモデルにおいて差異が存在しない事が示唆された。

（本研究の一部は厚生省核医学診断薬剤開発研究班の援助を受けた。）

535 Ga−67−fibrinogen−DFOの臨床動静脈血栓のイメージング化

佐藤仁一，鈴木輝康，山崎俊江，青木　茂，
古西博明，増田一孝*，浜津尚就*，山崎　武
（滋賀医大　放，*中放）中村良雄，田畑良宏，
森　渥視（滋賀医大　第二外科）鳥塚莞爾
（京大　放　核），堀内和子，横山　陽（京大　薬）

本学会においてGa−67−fibrinogen−DAS−DFOによる実験的動・静脈血栓モデルのイメージングを試みてきたが，今回，臨床への応用を試みた。RI−動脈造影法，RI−静脈造影法，CTなど血栓の存在が証明された症例及び，人工血管形成術後に血栓形成が推定される症例に限定して本製剤のイメージングの有用性について検討した。

血栓の形成されていると推定された人工血管形成術後，肺血栓症において，血栓のイメージングに成功したが，古い器質化した静脈血栓は描出できず，副行路など血栓の周囲の血流の存在する例のみ血栓が描出された。　本製剤はIn−111 oxine platelet法と異なり，採血，血小板分離などの操作の煩わしさがなく，簡単にキット化されているので，今後の広い臨床への応用が期待される。

（本研究は厚生省核医学診断薬剤開発研究班の援助を受けた。）

536 動脈瘤のIn-111-oxine標識血小板画像と血管造影所見との比較検討

武田　徹，石川演美，榊原　謙*，井島　宏*，
佐藤章仁，畠山六郎，秋貞雅祥（筑波大放科，
循外科*）

In-111-oxine標識血小板シンチグラムは，血栓形成部位の描出，およびその集積程度から新・旧血栓を区別することが可能である。我々は，動脈瘤の血栓シンチグラムと血管造影所見とを用い，動脈瘤内の血流動態と血栓形成状態について検討した。対象は腹部大動脈瘤16例，胸部大動脈瘤6例，脳底部・下肢動脈瘤各1例　計24例であった。

血栓シンチグラム上，小さな動脈瘤はほぼ一様な集積を示したが，大きな動脈瘤では動脈瘤内に集積のむらが見られた。血管造影では，動脈瘤内で渦流や淀みなどの血流異常が見られた。In-111-oxine集積むらの位置は血管造影で得られた動脈瘤内の血流異常部位とよく対応し，血栓形成が血流異常と強く関連していると考えられた。小さな動脈瘤内にも渦流が見られたが，検出器の空間分解能上の制限のため，集積むらが描出されなかったと考えられた。血栓シンチグラムは血栓形成部位の診断に加え，動脈瘤内の集積むらから血流異常部位の推定も可能であると考えられる。

537 老年者におけるIn-111標識血小板によるシンチグラフィの臨床的有用性の検討

永島淳一、西野英男、山片　敦、丹野宗彦、
千葉一夫、山田英夫
東京都養育院附属病院核医学放射線部

老年者において、血栓症の結果として起こる肺塞栓症、脳梗塞症、心筋梗塞症その他の重要臓器の梗塞症の頻度は高く、その診断は、核医学の分野においては、各臓器のシンチグラムにより行なわれてきた。今回、In-111 tropolone標識血小板（油井らの方法）を用いて老年者における血栓の検出を検討した。

標識血小板注射後、1．3．4．6日後に撮影を行い、また標識率およびpurelitvの算出および血小板寿命の測定をも行なった。血栓の描出は、1．3日より4．6日後のほうが検出されやすい傾向にあり、また非侵襲的検査法であるCT、エコーにて検出不可能であった頸動脈や心耳における血栓の検出が可能であった。

血管造影など侵襲的検査の施行が難しい老年者における血栓の検出には、In-111標識血小板シンチグラフィは有用な検査法の一つと思われる。

Presented by Medical*Online